

大昔、戦に敗れた侍が、清水を飲んだところ、数刻で死んでしまった。さらにある夏の日、荒代かきをしていた村人に、一人の旅僧が来て、「水が飲みたいが、この辺に清水はないか」とたずねた。

「水はあるが、その清水は毒だ」と村人は答えた。「湧出水に毒はない」といって、僧はその清水を飲んだ。

村人は昼飯時で家に帰り食事をすませて、小娘に馬を引かせて明道の墓前を通りかかったところ、馬がいなくなかったので、立ち止まって見ると旅僧が倒れていた。その旅僧が別の水が飲みたいというので、別の所の水を飲ませたが、死んでしまった。それ以来二人も死んだ清水を毒清水と呼ぶようになった。

村人は、待の時も、僧の時も、ねんごろに葬ってやり、清水の良い水になるように、祈祷してもらった。

(話者 吉田庄一・吉田一郎)

毒清水



## 六光内清水

大字梓衝字六光内耕地内に六光内清水という地名があり、昔からこの地に弁天様を祀って、二十三夜